

【事業者名称】高齢者グループホーム 志賀の里 (喜多ユニット)

22年 1月 13日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前年以降の職員会議で話し合い、理念を修正している。		
2	2	<input type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールや事務所の目に付くところに掲示しており、理念の共有、実践に取り組んでいる。		
3		<input type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には理解してもらっているが、地域の人々には啓発できていない。		
理念と共有 3項目中 0項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に機会をみて、近所の人たちとのコミュニケーションを取っている。		地域の方の介護相談には気楽に相談に応じている。平成21年度は5名の方の飛び込み相談があった。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに利用者と参加している。	○	自治会や地域活動に参加する機会を設ける工夫が必要である。
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々のケアに重点を置いており、地域貢献は出来ていない。		
地域とのつきあい 3項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の評価内容を意識しながら、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	5	<input type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議議事録を職員が回覧できるようにし、翌月の全体会議でも議事内容を説明している。		
9	6	<input type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターからの相談や、必要に応じて大津市介護保険課へ出向き、情報交換や連携はできている。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が積極的に成年後見に取り組むNPOや行政書士など関係者を作ることで、活用できる体制を準備しているが、職員は学ぶ機会が無い。	○	職員にも積極的に研修などに参加できるよう研修体制を整えたい。
11		<input type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた意識は職員間で徹底されている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 1項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となり、説明・納得を十分に得ている。		
13		<input type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者を設け、随時対応している。		
14	7	<input type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回志賀の里新聞を送っている。家族の面会時にも近況報告を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や面会時、ケアプラン開示時に、家族の意見を聞き、日々の介護に反映している。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は常に情報交換や意見交換を行っている。管理者はその意見を集約して運営者へ提案している。	○	運営者と管理者との運営に関する意見交換が必要であり、今後取り組んで行かなければならない課題である。
17		<input type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者・家族の状況に合わせて、その都度適切に調整できている。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	21年度後半には3人の退職者があり、その後の補充は出来ていない。	○	法人全体の雇用計画だけでなく、志賀の里単体での求人も検討していく。
理念を実践するための体制 7項目中 2項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時必要な研修には参加している。	○	今年度の事業所独自の年間研修計画の策定に取り組んでいく。
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会での交流や、外部研修への参加により各自取り組んでいる。		管理者が協議会の運営役員となり、積極的に交流機会を増やす研修等を企画している。
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生での食事会・ポーリング大会等を企画することで、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
22		<input type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握できていないと思われる。		
人材の育成と支援 4項目中 2項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		<input type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員・管理者は本人の言葉を大切にし、表出できない思いを感じられることを大切にしている。		
24		<input type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が窓口となり、家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
25		<input type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者を中心に、職員全員でアセスメントを行っている。		
26	12	<input type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「お試し利用」を活用し、徐々に馴染んでいただけるように工夫している。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 0項目					
<b>II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	<input type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は家事をしたり、テレビを観たり歌をうたったりと、他の利用者やスタッフと関わりながら過ごしている。		
28		<input type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、詳細な近況報告を行っている。家族とも連携は取れている。		
29		<input type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの本人、家族の関係を大切にしながら、イベントなどで共に過ごしてもらえよう努めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	利用者の馴染みのものを知るように努 め、スタッフ全員が適切な支援を継続して いる。	○	町内でのイベント行事に参加し、馴染 みの人、場所に接する機会を作って行 く。
31		<input type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者同士の関係には注意をはら い、お互いに支え合える関係はできてい る。		ホールで過ごす時間を大切にし、利用 者同士の関係性を大切にしている。
32		<input type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後も、面会や運営推進会議 の委員などで関わりは継続できている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>Ⅲ-1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	<input type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活に関する課題をあげ、その人らしい生活に近づけるようにアセスメントしている。		
34		<input type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力を得て、これまでの生活習慣・情報を収集しながら、職員全員が把握に努めている。		
35		<input type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1週間ごとにアセスメントを行い、個々の利用者のニーズをケアプランに適宜反映できるように努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中 0項目					
<b>Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1週間毎のアセスメントと月1回のユニット会議を行い、スタッフ間での意見交換により適宜見直しを行っている。	○	介護計画実施後の評価と本人・家族の意見をより反映できるよう書式の変更に取り組む。
37	16	<input type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し、本人・家族の状況に応じて計画作成に努めている。		
38		<input type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプランを作成しており、情報の共有は十分にできている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 1項目					
<b>Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした支援には結びついていない現状である。	○	必要な関係者と連携を取ることで、制度内で可能な限りの支援を行っていく。
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要な社会・地域資源とは協力できるよう、関係作りに取り組んでいる。		地域との防災時支援体制への連携が継続していく。
41		<input type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のサービスに結び付けている。		
42		<input type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に本人中心に必要な機関と協働している。		
43	18	<input type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診があり、受診支援・緊急時の連絡体制は十分に出来ている。		
44		<input type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居後も利用者の必要性に応じて、専門医への受診支援は継続できている。		
45		<input type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	志賀の里の常勤看護師との医療連携はできている。週に1回の定期的な訪問看護による健康管理を行っている。		
46		<input type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が窓口となり、病院のMSWなどとの連携を図っている。入院時には病院への情報提供は必ず行っている。		
47	19	<input type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療職・介護職が情報を共有することで、終末期への方針は統一できている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療職・介護職が情報を共有することで、終末期へのチームケアの支援体制は準備できている。実際に実践を積み重ねている。		
49		<input type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時の情報提供には努めている。		
地域資源との協働 10項目中 0項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	プライバシーの保護にも細心の注意を払っている。		
51		<input type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者中心の支援に努めている。		
52	21	<input type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、本人のペースに合わせた支援に取り組んでいる。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 0 項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力で、美容院へ行かれる人もいるが、大半は訪問理容を利用している。		
54	22	<input type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に負担にならない程度に米とぎや後片付けをスタッフと一緒にしてもらっている。		
55		<input type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事の際には、希望があればアルコールを提供している。普段はコーヒー・紅茶などの数種類の中から選んでいただいている。		
56		<input type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンを把握し、適宜介助している。(声かけでの誘導も含む)		
57	23	<input type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人員に余裕のある時は「入りたい」人を募ってから入浴介助をすることもある。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に利用者本位で支援し、習慣に添うよう休んでもらっている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 0項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫物・塗り絵・スケッチなど、本人の興味のある事、できる事を探りながら支援している。		
60		<input type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望したときは、可能な限り所持し使えるようにしているが、現在金銭管理ができる認知レベルの方がいない。		
61	25	<input type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化により、外出の希望が聞かれなくなってきている現状である。天気の良い日は外へ散歩や買い物に出かけている。		限られたスタッフの中でも、可能な限り外出できる機会を作る工夫が必要である。
62		<input type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	体調・天候などを考慮しながら、ドライブでの外出はできている。		
63		<input type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話・手紙の希望はないが、どちらも取り次ぎはしている。		先方の了承を得た上で、電話をかけたがり手紙のやり取りができることを伝えていきたい。
64		<input type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は多い。団欒できる場を提供している。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 0項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃から拘束をしないケアを心がけている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は常時開放している。		
67		<input type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事故防止への検討を重ねることで、見守りなどの安全には配慮している。		
68		<input type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の持込に関しては、事故防止のアセスメントを行うことで、可能な限り制限していない。		
69		<input type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態を適宜アセスメントすることで、ケアプランに反映させ事故防止に取り組んでいる。		
70		<input type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時などのマニュアルはあるが、すべての職員が応急手当や対応はできていない。		マニュアル整備は出来ているが、実際の研修を行い、全職員が統一した対応ができるようにしたい。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防による定期的な訓練は実施しているが、地域との具体的な連携は取れていない。	○	地域の自治会や他機関にも応援を依頼しており、合同訓練が出来るようにしていきたい。
72		<input type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時、必要時に家族と話し合い対応している。面会の少ない家族には手紙を送って説明している。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 1項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定し、顔色や数値の異常に早期に気づき、適宜対応できている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスが起きないように、職員同士で連携をとりながら行っている。		
75		<input type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の重要性はスタッフ全員認識できており、日中の運動も含めた便秘予防に取り組んでいる。		
76		<input type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に自分で出来る利用者には、口腔ケアをしてもらい、自力で出来ない人は介助することで全利用者の口腔ケアはできている。		
77	28	<input type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養管理はできている。食事以外にも時間を決めて水分摂取してもらえよう支援している。		
78		<input type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は医師・看護師により実施できている。		
79		<input type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具を使用する前は、アルコール消毒を行い、予防に努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 0項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関などは出入りしやすいように掃除を行っている。		
81	29	<input type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下などの共用部分は掃除することで、清潔を保っている。その都度季節に応じた絵や歌詞などを貼ったりして空間づくりには工夫している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたいときは戻ってもらい、ホールで過ごしたいときは、他者と何か一緒にしてもらったりと、自由な居場所の提供はできている。		
83	30	<input type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やタンスなどを持ち込んでもらい、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		
84		<input type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめな温度調整、換気は行っている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 0項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人がどこまで自力で出来るのかを見極め、出来る範囲内でしてもらえるよう工夫している。		
86		<input type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の「わかる力」を活かすため、失敗や混乱することを避け、上手に出来ることをしてもらえ環境ができています。		
87		<input type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日や暖かい日には、外へ出て過ごしたり外周を散歩したりして過ごしてもらっている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 0項目					

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項目		14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日中、ご本人の出来る事をして頂きながら、それぞれのペースで過ごしてもらえ介護を大切にして日々の生活支援を行っています。

# 評価結果整理表

## 個別表

□のチェック項目数

### I 理念に基づく運営

－1.	<input type="checkbox"/> 理念と共有	0 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	1 項目/5項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	2 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	2 項目/4項目

### II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

－1.	<input type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1 項目/6項目

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

－1.	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	0 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	<input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	0 項目/10項目

### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### IV－1. その人らしい暮らしの支援

－1. (1)	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	0 項目/3項目
－1. (2)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	0 項目/6項目
－1. (3)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	0 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	1 項目/8項目
－1. (5)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	0 項目/7項目

#### IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

－2. (1)	<input type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	0 項目/5項目
－2. (2)	<input type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	0 項目/3項目

## 総合評価

### I 理念に基づく運営 ( 4項目/5項目)について

地域密着型事業所として、その地域に認められ存在意義のあるグループホームとして、「地域ケア」に関わって行ける事業所運営を目指さなければならない。そのために運営者・管理者・職員間での意見交換が大切であり、その連携を図ることで、利用者・家族・地域への介護支援を充実を向上させていくことができると考える。

### II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 ( 1項目/2項目)について

さらなる地域との関係作りが必要であり、その為には事業所からの情報発信が大切だと考える。今年度は管理者・職員共々地域の人たちとの交流に努力して行くことにする。

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント ( 2項目/4項目)について

個別援助記録と連動した介護計画書の作成システムは有効に機能しているが、これにさらに定期的な評価と利用者本人・家族の意向を記載できるよう書式の追加変更を実施していくことにする。

### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ( 1項目/7項目)について

地域も含めた他機関との「災害対策」の策定・連携は重要課題であり、今年度にはできるところから取り組むことにする。また、かねてからの課題である職員不足の改善に関しては、運営者の経営方針と現場からの希望との間に多少の隔たりがあり、この点を十分意見交換することで改善できるよう努めていくこと必要である。

### V サービスの成果に関する項目について

今春には開設10周年という、滋賀県でも最古参のグループホームであり、この間に多くの認知症介護の実践を積み重ねてきた。その意味では県内のグループホームのベンチマークとしての存在を意識しながら、今後の「グループホームのあるべき姿」を目指して事業運営していかねばならないと考えている。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 高齢者グループホーム志賀の里(喜多)

評価年月日：平成22年 1月 13日

前回評価年月日：平成21年 1月 26日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
16・18	1	職員の必要時の補充	平成22年2月 ～23年1月	運営者への人事状況の報告と現状の把握		平成 23年 3月
3・5	2	地域への関わりと地域密着事業所の啓発	平成22年2月 ～23年1月	地域活動への積極的参加を図る		平成 23年 3月
36	3	ケアプランへの本人・家族の意見と評価項目の追加	平成22年2月 ～23年1月	介護計画書の書式、一部変更		平成 23年 3月
19・20	4	職員の資質向上に向けた取り組み	平成22年2月 ～23年1月	具体的な職員研修計画の策定		平成 23年 3月
39	5	小規模多機能性を活かした支援の実践	平成22年2月 ～23年1月	地域の社会資源との連携強化		平成 23年 3月
71	6	緊急対応への自主訓練	平成22年2月 ～23年1月	医療職との連携による研修の実施		平成 23年 3月